専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベーシック作詞	授業形態/必・選	講義	必修
	作詞		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験18年 TVアニメ「トリアージX」エンディング主題歌「この素晴らしい世界に祝福を」など数多く作詞を担当。 その他、数多くの作編曲、レコーディング、書籍執筆など幅広く活躍中。 著者「やっと見つけた!あなたの才能を100%活かせる作詞作曲の本」がある。				

授業概要
メロディと歌詞を融合させた時の歌詞の大切さを身に付ける。 作詞のストーリー、アイディアの出し方など能力を向上させる。 決められた文字数(音符数)に対して自然な言葉を入れられる能力を向上させる。

到達目標
シンガーソングライターとしてだけでなく、作曲家の決まったメロディに対して作詞家として内容の濃い要約された言葉でアプローチできるスキルを身に付ける。

授業計画・内容	
【前期] 1～5回目	言葉が本来持つ力を引き出す ・メロディの高低差と喋り言葉のイントネーションを合わせることでキャッチーな歌詞になる事を理解する ・そうすることで喋りかけられているかのように言葉が耳から入って心に響く事を理解する
【前期] 6～10回目	一度しかないチャンスをどう掴むか ・ライブでの演奏は1度きり、歌詞も一度しか聞いてもらえない事をしっかり認識する ・喋り言葉にない母音を歌詞に入れる事でリスナーに伝わりづらくなることを理解し作詞する
【前期] 11～15回目	発注側になる事で普段思い付かない内容や言葉を出す ・レコード会社役(内容の依頼)、作詞家役に別れ発注と受注を学びシンガーソングライターとしてのスキルを上げる ・ワードを混ぜ合わす事により普段思いもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす
【前期] 16～19回目	作詞は感覚ではなく、テクニックを身に付けて書き進める ・無駄の無い情景描写の書き方を学ぶことでAメロから引き込まれる歌詞を書けるようにする ・歌詞よりメロディが先にあるという条件を設け、音符数が限られている中で作詞する難しさと楽しさを学ぶ
【前期] 20回目	「前期試験」
【後期] 21～25回目	近い未来を見据えて当て込み譜に触れる ・実際のプロの現場で使われた当て込み譜を使い、2年～卒業後の仕事を視野に入れ作詞することで引き出しを増やしていく ・当て込み譜に触れ、実際の玉譜に書き込む事で言葉がはまりづらいことを理解し、興味を深める。
【後期] 26～30回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック① ・5文字を6文字に増やす方法やテクニックを学び理解し、当て込み譜に歌詞をつけ書くことの楽しさを改めて知る ・逆に5文字を4文字に減らし同じ意味の言葉を探すことでより沢山の言葉を歌詞に入れ込むことができる技術を取得する
【後期] 31～35回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック② ・1音符に2音の歌詞を入れることができる方法やテクニックを学び理解することで歌詞の幅が広がり自由度が増すことを認識する ・英語のLoveなど1音で発音出来てしまう言葉が日本語にも沢山あることを知ることで更に幅が広がる事を確認する ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書くことを目標とし、書き進める
【後期] 36回目	「後期試験」
【後期] 37～40回目	一人前の作詞家になるために ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書き、文字数やイントネーションなども含めきちんと書けるようになっているかを確認する ・実際に発売された楽曲と照らし合わし自分の弱点と美点を理解し更にスキルを上げる
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	授業で習う方法やテクニックが全ての歌詞に当てはまるという理解をしないこと。 解らない部分は積極的に質問し、説明以上に興味を持った内容は授業後積極的に検索や視聴していく事が大切です。 各自メモを取り授業後に反復練習する事で楽器と同じように作詞もスキルアップしていきます。
使用教科書	無し

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSW発声トレーニング	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォイストレーニング Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。 現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。				

授業概要
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。 シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。

到達目標
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。

授業計画・内容	
【前期] 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。
【前期] 5～8回目	「腹式」発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。
【前期] 9～12回目	「滑舌」言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。
【前期] 13～16回目	発注側になる事で普段思い付かない内容や言葉を出す ・レコード会社役(内容の依頼)、作詞家役に別れ発注と受注を学びシンガーソングライターとしてのスキルを上げる ・ワードを混ぜ合わす事により普段思いもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす
【前期] 17～19回目	「高音域①」高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。
【前期] 20回目	前期試験
【後期] 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続
【後期] 25～28回目	「支え」声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。
【後期] 29～32回目	「トーンコントロール」歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。
【後期] 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。
【後期] 36回目	後期試験
【後期] 37～40回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌唱時の基本的な身体の使い方を身に付けることは、何よりも大切。間違った発声法は喉を傷めるだけでなく、聴衆に嫌悪感を感じさせます。そういったものを“個性”と正当化しないことです。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	楽曲創作Ⅰ		授業形態/必・選	実習	必修
	楽曲創作Ⅰ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1998年にバンドでメジャーデビュー。 デビュー前から専門学校の音楽講師を務める。音楽理論、作曲、編曲、DAW等の講師を歴任。 バンド解散後はキーボードサポート等で様々なアーティストと共演。楽曲提供、CM音楽制作等も手掛ける。					

授業概要
自身のオリジナル楽曲を作るにあたり音楽理論を含む様々なアプローチでオリジナル楽曲を創作。 基礎から応用まで個々のレベルに合わせた個別の指導。弾き語りでのバッキングの奏法やDAWを使ったオケ制作、音源MIX等の方法を学ぶ。

到達目標
オリジナル楽曲を1つでも増やせる様にする。 ライブパフォーマンスが出来る様になる(ギター、ピアノの弾き語りやDAWを使ったパフォーマンスを向上させる)。 コード進行(キー)を自分で考える。楽曲のコードに対してメロディーが何度になるかを理解する。

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	コード機能を知る ・コード進行の基本を学ぶ。 ・コード進行を元に簡単なモチーフ作り。 ・実際に声に出してのフレーズ作り。
【前期】 7～11回目	様々なダイアトニックコードを使ったメロディーの具体的なモチーフ作り ・1つのモチーフを何度か繰り返してみる。 ・出来たモチーフを同じリズムで音程を変えてみる等、セクションの元となるモチーフを作る練習。
【前期】 12～16回目	オリジナル曲制作① ・コード進行の提案。 ・各自のオリジナル曲を制作。 ・それぞれのレベルに合わせた創作アドバイス。
【前期】 17～21回目	オリジナル曲制作② ・各自のオリジナル曲を制作。 ・学内ライブに向けて楽曲をブラッシュアップさせる。 ・学内ライブ後の反省、今後の課題を見つけ後期の目標を定める。 ・前期試験の対策。
【前期】 22回目	「前期試験」
【後期】 23～27回目	オリジナル曲製作③(マイナーキーの楽曲) ・マイナーキーのダイアトニックコードを理解する。 ・マイナーキーのコード進行における楽曲解析とメロディーライティング。 ・学内選抜ライブに向けての楽曲ブラッシュアップ。 ・オリジナル曲の創作アドバイス。
【後期】 28～31回目	オリジナル曲製作④(ノンダイアトニックコードを使ったコード進行) ・ノンダイアトニックコードを使ったコード進行でメロディーライティング。 ・様々なコード進行を理解する。 ・転調のバリエーション(平行調、同主調、前触れのない転調等)を習得。 ・オリジナル曲の創作アドバイス。
【後期】 32～35回目	オリジナル曲製作⑤(テンションコードを理解する) ・各コードタイプで使えるテンションを学ぶ。 ・テンションコードにおけるハーモニーのヴォイシング例。 ・年度末イベントに向けての選曲及び楽曲のブラッシュアップ。
【後期】 36～38回目	オリジナル曲製作⑥(メロディーにおけるテンションノートを理解する) ・メロディーにおけるテンション音を解析し自身の楽曲に反映させる。 ・オリジナル曲の創作アドバイス。 ・後期試験の対策
【後期】 39回目	「後期試験」
【後期】 40回目	オリジナル曲製作⑦(次年度への準備) ・学んだ事を踏まえ次年度へ活かすべき楽曲創作。 ・オリジナル曲の創作アドバイス。 ・各自スキルアップの為の次年度目標設定(アコギしか弾いた事のない学生が2年時はピアノでライブに挑戦する等)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自身の楽曲を1つでも増やせる様に授業時間を有効に使って欲しいです。 オリジナル楽曲を作ることは大変ですが、出来上がった時の達成感や喜びもひとしおです。 等身大でいいので今の自分を表現してください。 理論的な内容は1回で覚えられるものではないので、分からない事はその場で聞いて解決してください。
使用教科書	担当教員の制作した資料

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ（前期/後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル＆ヴォイトレⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース（選択）				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、 アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニ ング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。				

授業概要
ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込めているかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。

到達目標
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。

授業計画・内容	
【前期] 1～4回目	「姿勢、呼吸の自由曲の中での実践、修正、底上げ」表題の項目が、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニング的メソッドを繰り返し行う。
【前期] 5～8回目	「腹式の自由曲の中での実践、修正、底上げ」歌唱時に腹圧が多すぎる、少なすぎることの修正を主に行う。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。
【前期] 9～12回目	「滑舌の自由曲の中での実践、修正、底上げ」低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。
【前期] 13～16回目	「共鳴の自由曲の中での実践、修正、底上げ」曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。
【前期] 17～21回目	「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。
【前期] 22回目	前期試験
【後期] 23～26回目	「高音域②の自由曲の中での実践、修正、底上げ」上の「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」の継続。
【後期] 27～30回目	「支えの自由曲の中での実践、修正、底上げ」フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。
【後期] 31～34回目	「トーンコントロールの自由曲の中での実践、修正、底上げ」歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認すて修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。
【後期] 35～38回目	「総合①」学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。
【後期] 39回目	後期試験
【後期] 40回目	「総合②」上の「総合①」の継続。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	出したい声に対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違います。その重要さを理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方をより高めて、声と言葉だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（前期/後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	80回（160単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				

授業概要

コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。
アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成（MCや曲間の繋ぎ）、アンサンブルに必要な要素（テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス）の重要性を学ぶ。
題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。
MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。

到達目標

合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。
授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。
コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。

授業計画・内容

【前期】 1～32回目	**アンサンブルとは何か** ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 **課題曲①～④** ・既成楽曲（課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータル的プロデュース。 **アンサンブルフェスティバルへ向けて** ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【前期】 33～38回目	**アンサンブルフェスティバルの事前資料作成** ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【前期】 39～40回目 （前期試験）	**半期のまとめ** ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
【後期】 41～74回目	**アンサンブルとは何か** ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 **課題曲①～④** ・既成楽曲（課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータル的プロデュース。 **アンサンブルフェスティバルへ向けて** ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【後期】 75～76回目	**アンサンブルフェスティバルの事前資料作成** ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【後期】 77～80回目 （後期試験）	**半期のまとめ** ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間（課題曲が切り替わるまで）はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルフォロー		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	80回（160単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。				

授業概要
「アンサンブルⅠ」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。

到達目標
バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前に出来るようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～38回目	**「アンサンブルⅠ」課題曲①～④の仕込み** ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ ・間奏の小節数（アレンジの進捗次第で都度修正）コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー（音程・リズム）の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス（ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど）を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け（例：1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など）やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー
【前期】 39～44回目	半期のまとめ 「前期試験」
【後期】 45～78回目	**「アンサンブルⅠ」課題曲⑤～⑧の仕込み** ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ ・間奏の小節数（アレンジの進捗次第で都度修正）コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー（音程・リズム）の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス（ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど）を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け（例：1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など）やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー
【後期】 79～80回目	半期のまとめ 「後期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	「アンサンブルⅠ」授業では歌唱指導をメインに行いません（合わせる事に注力する）ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンブルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。
使用教科書	無し

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベーシック実技AG&KEY	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEY I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	

	アコースティックギター	キーボード
担当講師 実務経歴	実務経験30年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。	実務経験14年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。
授業概要		
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。 リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。 音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キーボードに慣れ親しむ。
到達目標		
	ベーシックなコードワークに対応出来るようにする。 右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。 カッティング、アルペジオの奏法を習得する。 フィンガーピッキングを習得する。	コードの響きを聞き分け、弾くことができる。 両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。 キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。

授業計画・内容		
	アコースティックギター	キーボード
【前期] 1～6回目	イントロダクション ・演奏時のフォーム(体の角度、左肘の位置など)の確認 ・右手のリズム(ピックの角度、挟む強さ)の確認 ・強弱に重点を置いたストローク	イントロダクション ・キーボード楽器全般の基礎知識、音色の違いや特徴を知る ・鍵盤上の音の並び・コードの仕組み確認 ・コードの部類を聞き分ける(Major、Minor)
【前期] 7～11回目	左手のフォームの基礎 ・コードの移り変わり時の左手の各指の動きをチェック ・各指の独立性、特に薬指と小指の強化 ・セーハコードのコツ(手首の角度など)	スケール、ダイアトニック ・様々なスケール、ダイアトニックコードの理解 ・色々なキーでも弾いてみる ・シンプルなパターンの楽曲にチャレンジ
【前期] 12～16回目	ステージングの想定 ・クリックに合わせた演奏 ・ストラップをつけてのパフォーマンス ・歌いながらのリズムの取り方、強弱の付け方	転回、ナンバリング ・転回型を用いながら、共通音を使い、フォーム(ポジション)を工夫し循環コードパターンを弾く。 ・コードパターンを通して、関係性を知る、聞き取る練習
【前期] 17～21回目	ストロークパターンのバリエーション ・8ビートとそのシンコペーション ・16ビートとそのシンコペーション	両手を使ったリズム ・右手と左手の分離、組み合わせの練習
【前期] 22回目	「前期試験」	「前期試験」
【後期] 23～28回目	個性的なコードフォーム ・セブンス、sus4、add9コードの効果的な使い方 ・ハイポジションでのコードフォーム ・カポタストの効果的な使い方	他の様々なコード ・diminish、half diminishなど4和音の構成
【後期] 29～34回目	ギター特有のテクニック ・シンプルなアルペジオ演奏 ・シンプルなカッティング演奏 ・ハンマリング、プリング、スライド等取り入れた演奏	タイム感の意識 ・クリックに合わせてシンプルなコードパターンを弾く。
【後期] 35～36回目	フィンガーピッキング ・3フィンガー4フィンガー、それぞれの使い分け ・アルペジオとベースノートプラス和音のパターン	バッキングパターン ・色々なバッキングパターン(4分、8分、16分、分散和音など)を通してリズムやニュアンスの表現を身に付ける
【後期] 37回目	「後期試験」	「後期試験」
【後期] 38～39回目	オリジナル曲演奏指導 ・リズムバリエーション、キーの再設定 ・イントロ等のフレーズを考えてみる	楽曲演奏、年間のまとめ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)	
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんでやっていきましょう！	キーボードに慣れるように、楽しみながら一歩ずつ習得していきましょう！ 隔週授業なので復習や練習も頑張りましょう。
使用教科書	無し	必要に応じて課題曲の譜面配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	DAW&アレンジメント	授業形態/必・選	講義	必修
	DAW I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。				

授業概要
DAW(mac＆Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。

到達目標
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。

授業計画・内容	
【前期] 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ
【前期] 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解
【前期] 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成
【前期] 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習
【後期] 23回目～35回目	**各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成** ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ
【後期] 36回目～37回目	ツーミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)
【後期] 38回目～39回目 (前期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSW音楽理論	授業形態/必・選	講義	必修
	音楽理論Ⅰ入門		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース、シンガーソングライターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験10年。専門学校在籍時にロックバンドキーボーディストとしてメジャーデビュー。脱退後は様々な現場でサポートキーボーディスト、マニピュレーター、アレンジャーとして活動。				

授業概要
音楽制作に必要な最低限の知識を習得。 音部記号の書き方など、初歩的な部分から丁寧に学習していく。

到達目標
ダイアトニックコードを使用したコード進行作成から簡単な応用(セカンダリードミナント等)までを学習し、 楽曲制作に活かせるように学習。

授業計画・内容	
【前期] 1～5回目	・基礎知識 五線、音部記号、音符の種類、音符の長さ、音の長さなど 小学校～高校の音楽で学習した内容を再度丁寧に復習。
【前期] 6～10回目	・音程 2音間の音程を理解する。(6～8週はドを基準としたインターバル) (長・短・完全音程)
【前期] 11～15回目	・音階 様々なキーの長音階、自然短音階を正確に答えられるように学習する。 (15週目はペンタトニックなどの説明)
【前期] 16～19回目	・調号とキー 音階をより簡単に考えられるよう、調号とキーについての学習。 (17回目以降余裕があれば平行調についての説明)
【前期] 20回目	「前期試験」
【後期] 21～25回目	・コード入門 3和音についての学習。コードの仕組みや構成音を理解する。 (メジャーコード・マイナーコードの構成音、コードネームの表記の仕方) ディミニッシュ・サスフォー・オーギュメントなど特殊な構成のコードの説明。
【後期] 26～30回目	・コード応用 4和音(セブンス)の構成音を理解する。 メジャーセブンス・ドミナントセブンスの違いを説明、繰り返し練習問題で確認。
【後期] 31～35回目	・ダイアトニックコード 楽曲制作に必要なダイアトニックコードを学習する。 コードの構成音・コードネーム表記・ディグリー表記をしっかりと理解する。 (調号とキーの復習も兼ねて様々なキーのダイアトニックコードを書き出せるようにする)
【後期] 36～38回目	・ファンクション入門とセカンダリードミナント 簡単なファンクションについての説明の後、コード進行のテンプレの紹介とコードの連結、 ドミナントモーション、セカンダリードミナントの使い方を学習する。
【後期] 39回目	「後期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	苦手な人が多い音楽理論ですが、入門編ではなるべく各々の理解度に合わせてゆっくり進んでいきます。慌てず、しっかり理解して素敵な曲を生み出せるように頑張りましょう。
使用教科書	必要に応じて講師側で作成

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSW音楽理論	授業形態/必・選	講義	必修
	音楽理論Ⅰ初級		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドリエイターコース、シンガーソングライターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験21年。キーボーディストとして数々のバンド活動を経た後、 様々なアーティストのライブサポート、レコーディング、楽曲制作を行う。 2019年には自身のグループでメジャーデビュー。2023年よりESP学園にて講師就任。				

授業概要
音楽制作に必要な基本的かつ一部応用的な音楽理論を習得。 コードワークやスケールなどを初歩的な部分から丁寧に学習していく。

到達目標
ダイアトニックスケール、ダイアトニックコードの理解から、 セカンダリードミナントやマイナー借用などポップスで全般的に使用される主要な ノンダイアトニックコードまでを総合的に理解し、自身の音楽制作で活用できるようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	五線、音部記号、音符の種類や長さ、音程、調号など入門的な内容把握の確認。 各キーのメジャースケール、ナチュラルマイナースケールの理解と暗記。
【前期】 6～10回目	コードの仕組みや構成音を理解する。 トライアド、テトラッド(セブンス)から、その他sus4、6、dim、aug、♭5系など 特殊構成和音についての理解と暗記。転回形やオンコードのボイシング把握。
【前期】 11～15回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールの理解。 メジャーダイアトニックコードと3種のマイナーダイアトニックコードの理解。 各ダイアトニックコードの構成音、ディグリー表記、機能、各キーのコードネーム表記の理解と暗記。
【前期】 16～19回目	ダイアトニックコードを活用した出現頻度の高いコード進行やケーデンスの説明と楽曲実用例の解説。 ドミナントモーションの理解。 ペンタトニックスケール、ブルーノートの解説とフレーズ作成の実践。
【前期】 20回目	「前期試験」
【後期】 21～25回目	テンションノートの種類と位置の理解と暗記、テンションコードのボイシング把握。 各ダイアトニックコードのディグリーにおける使用可能テンションの理解と実用例の解説。
【後期】 26～30回目	セカンダリードミナントの理解と楽曲実用例の解説。 裏コードの理解とそれを含めたセカンダリードミナントの活用実践。
【後期】 31～35回目	マイナー借用和音やその他ポップスにおける主要なノンダイアトニックコードの理解と 楽曲実用例の解説。
【後期】 36～39回目	ノンダイアトニックコードを含む出現頻度の高いコード進行やケーデンスの説明と楽曲実用例の解説。 ここまで学んできたことを活用してメロディへのコード進行付けの実践。
【後期】 39回目	「後期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音楽理論とは楽曲制作という目的地に辿り着くための道標のようなもの。詳細な地図や複数の移動手段を把握しているほど早く正確に目的地に辿り着けるように、音楽理論を修得することで自分の思い描く楽曲や演奏イメージを早く正確に具現化できるようになります。一緒に楽しく学んで修得し、楽曲制作や演奏に活用していきましょう。
使用教科書	必要に応じて講師側で資料を作成、配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSWベーシック歌唱	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルクリエイトⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、2002年よりボイストレーナーの仕事を始める。 現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中				

授業概要
自由に課題曲を選び、発声、テクニック、ステージングなど全ての面で、その曲を仕上げていく。個々の声、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。

到達目標
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を見付け、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライヴやオーディションに繋げることを目標とする。

授業計画・内容	
【前期] 1～2回目	歌いたい曲を選ばせて歌唱させ、声質、音域、現時点で身についている技術の提示、好きなジャンルやアーティスト、好みの服装のチェックなどを行い、本人の良いところを提示し、それを活かした歌唱法、ジャンル選びを考えさせる
【前期] 3～6回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする
【前期] 7～10回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)
【前期] 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ポージングの設定と変化に関して)
【前期] 15～19回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)
【前期] 20回目	前期試験
【後期] 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)
【後期] 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋ブレスアピール、アクセントなど)
【後期] 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導
【後期] 33～36回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)
【後期] 37回目	後期試験
【後期] 38～39回目	総復習、アーティスト性の絞り込み
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストといして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れましょう。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				

授業概要
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。

到達目標
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅰ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				

授業概要
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。

到達目標
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅠ（前期）	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅠ（前期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				

授業概要
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。
到達目標
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク（8分、3連、16分）。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあるとは思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅠ（後期）	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅠ（後期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				

授業概要
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。

到達目標
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあるとは思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。